

各位

梅雨の間なのに、かなり暑い日があったりで
快適には過ごせない毎日です。
まだしばらくはこの梅雨と付き合わなくてはならないようです。
何とか気分転換したいものです。

そのために、花の話題を2編入れました。

今月は過去最高の20編です。
と言いましても、「これからの日本をどうする？」シリーズが
14編ありますが、これはもともとは1編で作成したものです。
ですが、それではお忙しい皆様にお読みいただけませんので
テーマごとに独立の編としたものです。
その意味では全部で6編とも言えます。

以下の要約をご覧ください、
ご関心あるものをお読みください。

★—————No. 34 11年7月—————★

以下は作成順です。ブログでは逆の順序です。

■低放射線量の有益性について：再論

非常に重要なテーマです。追加情報をお伝えします。

<http://uenorio.blogspot.com/2011/06/blog-post.html>

■ちょっと休憩

当家及び近所の「お花」の話題です。

びっくりすることがあるかもしれません。

http://uenorio.blogspot.com/2011/06/blog-post_16.html

■「知性誕生」

脳科学者の著書の紹介です。

あまり有益ではなかったのですが、最後に私の「理論」を
多少ご紹介しました。

http://uenorio.blogspot.com/2011/06/blog-post_20.html

■菅総理の引き際

あきれ果てた行動の菅総理の終りの予測です。

http://uenorio.blogspot.com/2011/06/blog-post_27.html

■花の話題つづき

「ちょっと休憩」していたら、

またまたびっくりしたことがありましたので

そのご紹介です。

http://uenorio.blogspot.com/2011/06/blog-post_4114.html

■これからの日本をどうする？全体解説

震災後の新聞記事・報道をテーマ別に整理したものです。

上野の意見も登場します。

以下はそのシリーズです。

http://uenorio.blogspot.com/2011/06/blog-post_28.html

■思考法の転換 「もっと自分で考えなさい！」

「 」の中がその結論です。以下同様です。

http://uenorio.blogspot.com/2011/06/blog-post_1801.html

■情報開示に対する意識変化 「早め早めに情報開示」
http://uenorio.blogspot.com/2011/06/blog-post_1648.html

■安全対策に対する意識変革 「事故が起きた時の対策重視」
http://uenorio.blogspot.com/2011/06/blog-post_2886.html

■「公共の利益重視」の見直し 「公共の利益優先せよ」
http://uenorio.blogspot.com/2011/06/blog-post_6468.html

■現場主義、現場力の強化 「それが日本の得意技」
http://uenorio.blogspot.com/2011/06/blog-post_7342.html

■現場主義による分権化 「それが日本の強み発揮」
http://uenorio.blogspot.com/2011/06/blog-post_2048.html

■有事対応力の強化 「起きた時の対応訓練をせよ」
http://uenorio.blogspot.com/2011/06/blog-post_7934.html

■外交の戦略 「どこと組む？」
http://uenorio.blogspot.com/2011/06/blog-post_5494.html

■官民連携の強化 「日本の強みを捨てるな」
http://uenorio.blogspot.com/2011/06/blog-post_5881.html

■国家財政の破たん救済 「まずは産業の強化」
http://uenorio.blogspot.com/2011/06/blog-post_1850.html

■ビジネスにおける意識変革 「いろいろ」
http://uenorio.blogspot.com/2011/06/blog-post_3324.html

■ビジネスの方向性 「自分で考えなさい」
http://uenorio.blogspot.com/2011/06/blog-post_8809.html

■学問のあり方・大学のあり方 「いいですね」
http://uenorio.blogspot.com/2011/06/blog-post_2075.html

■ゴールドラット博士の死を悼む
http://uenorio.blogspot.com/2011/06/blog-post_29.html

ご関心のあるテーマからお読みいただければと思います。
今月もよろしく願いいたします。

当メルマガは、
以下の方法でお送りいたしております。
このメール本文では、「上野則男のメルマガ」のテーマ名だけをお知らせします。
内容は、以下のいずれかの方法でご覧いただくことができます。

1. 月刊の「上野則男のメルマガ」
このURLで、バックナンバを含めてご覧いただけます。
<http://www.newspt.co.jp/data/maimaga/mgbk.html>

ブログにアクセスできない方は、こちらでご覧ください。

2. 随時更新される「上野則男のブログ」
総括の入り口のURLは以下のとおりです。
<http://uenorio.blogspot.com/>

個別のテーマのURLは、下のテーマ一覧のところに表示しています。

3. 携帯で「上野則男のブログ」をご覧いただくこともできます。
携帯用のQRコードが、上記の「上野則男のメルマガ」の冒頭部、
または「上野則男のブログ」の冒頭部右に示されています。
ご利用ください。

ご意見等につきましては、ブログへの書き込み（なるべくこれをお願いします）か
当メールへの返信でお願いいたします。

11年7月一

■低放射線量の有益性について：再論

非常に重要なテーマです。追加情報をお伝えします。

<http://uenorio.blogspot.com/2011/06/blog-post.html>

5月14日に

「『低放射線量は有益である』という証明」という
発信をしましたら、

「とんでもないことを言う。
君は子供を放射線があるような小学校に
送り出せるのか。
原発推進派のまわし者か」

などというメールをいただきました。

「過激なことを言いますね」
とやんわり言われる方もありました。

「低放射線量は有益である」かどうかは、
科学あるいは客観的事実の世界のことであって、
主義・主張とか好き嫌いのお話ではありません。

事実を認めるか認めないかで、
こんなに社会の対応が違うことは
珍しいのではないのでしょうか。

この事実を認めれば、
野菜や畜産物・魚類の出荷制限や風評被害は
ほとんど起きないのです。

この事実を認めていないばかりに
社会はたいへんなコストを払っています。

いくつか、放射線が有害とは限らないという
記事・寄稿をご紹介します。

その1 4月17日の日経新聞「ナゾ謎かがく」に
以下の記事がありました。

「このこと
（低放射線量は生物に与える影響が大きいこと）
は自然放射線が強い地域での
がんの罹患率を調べることで確かめられつつある。

インド南部ケララ州のカルナガパリ地域は
放射性物質を含む鉱石が分布する。

自然放射線量は世界平均の5－10倍で
住民は年間10－20ミリシーベルトの放射線を
常時浴びていると推定される。

2009年にまとまった約7万人の疫学調査では、
総線量が600ミリシーベルトの人でも、
対象地域と比べたがんの死亡リスクの差は
確認できなかった」

「差は確認できなかった」という消極的発言ですが、
掲載されていたグラフを見ますと、
総線量300ミリシーベルトの人たちのがんの死亡率は、
対照地域の人たちよりも低く（1割減位）なっていましたし、
600ミリの人たちでも同じく数%減でした。

因みに、そのグラフでは
同じ総線量でも、原爆被爆者は、
総線量が多くなるにつれて、
がんの死亡リスクがほぼ比例的に高まっていました。
一時に大量の線量を受けることは危険なのです。

その2 致知2011年7月号の渡部昇一氏「歴史の教訓」
の中の1節
「放射線の害について正確な知識が不可欠だ」
に以下の記述があります。

広島、長崎への原爆投下で多くの人々が強い熱線、
放射線を浴び、犠牲になった。
放射線研究はこのことが土台になって進められた。
つまり、放射線はすべて有害、
ということが研究の前提になっていたのである。

だが、研究が進むにつれ、
この考え方が基本的に間違っていることが分かってきた。
中略
あるレベル以下の放射線では
DNAが傷ついても修復酵素が活性化し、
免疫性が高まって健康にいい、
といったことが分かってきたのである。

中略
放射線の害として盛んに言われてきたことに、
DNAが傷つき、遺伝に影響が出る、ということがある。
だが、長崎大学名誉教授の長瀧重信氏は
はっきりこれを否定しているのだ。
この人は、放射線影響研究所の理事長を長いこと務め
放射線研究に携わってきた人である。

中略
「放射線について正しい知識を持たなければならない。
福島県の乳牛も捨てる必要はなかった」
とも高田教授は言う。

中略
放射線はすべて害と決めつけていたずらに脅えることは、
水音の羽音に脅えて総崩れになった
平家のようなものである。
風評を撒き散らして被害を拡大させるだけで
百害あって一利なしである。

それは原発の安全性についても、
認識の正確性を欠くことにつながる。

(以上、渡部昇一氏のご意見)

しかるべき人たち（前回論文のラッキー博士も）が、
主張していても、今のところ社会全体は認めていません。
誰あるいはどの機関が言え、
社会全体が認めるのでしょうか。

私は、TBSとフジテレビの報道番組に、
以下のような投書をしているのですが、
今のところその反応はないようです。

Aチャンネル向け：
福島原発の報道では、
放射能は一切害があるという前提で報道されています。

そのため、
産地の野菜や畜産物、魚類が不当な出荷制限を受けて
生産者が甚大な迷惑を受けています。

ところが、「低放射線量は健康に良い」という研究発表、
というより
一部の人たちでは常識になっていること、があります。

ぜひ、この説を研究して、
不当な避難や出荷制限で多くの人々が苦しむことを
止められるように協力してください。

その説は、以下の私のブログを参照してください。
よろしく願いいたします。

上野則男のブログ「「低放射線量は有益である」という証明」
http://uenorio.blogspot.com/2011/05/blog-post_14.html

Bチャンネル向け：

いつも楽しみに拝見しております。
お伝えしたいことがあります。
2日ほど前の番組でも、放射能はとことん悪いの一点張りでした。

ところが、違うのですよ。
放射線は低線量（おおむね数十ミリシーベルト）なら有益である
という実証論文があるのです。
以下の私のブログでご紹介していますのでご研究ください。

一味違う報道ができるようになると思います。

これ以上無駄な社会的コストを支出しないためには
どうしたらよいのでしょうか。

■ちょっと休憩
当家及び近所の「お花」の話題です。
びっくりすることがあるかもしれません。

梅雨がうっとうしいですし、政治もうっとうしいですね。
気分転換に花の写真をご紹介します。

なんと今でも桜の花が残っているのですよ！
八重桜の普賢象ですが、毎年6月まで
1輪か2輪残っています。

私のジョギングコースに3本普賢象があるのですが、
今年はいつものチャンピオンが1週間前にダウンして
別の樹の1輪が頑張っています。
風雨に耐えるのですからすごいです。
でも私以外誰も気がつきません（ようです）。
それがこの写真です。

この1輪はここに掲載した次の日6月17日には散ってしまっていました。
雨に当たったのでしょうか。残念でした。

ところが、なんとその17日、例年私がマークしている樹に
小さな1輪が咲いたのです。生き残りではありません。
チャンピオンの面目にかけて咲いたという感じです。
それがこの花です。
前にある小枝が邪魔をしていますが、れっきとした花びらです。

ついでにもう2枚、我が家の花をご紹介します。
アジサイですが、後ろの塀にご注目ください。
5月に「ゴールデンウィークの成果」でご紹介した塀のペンキを
2トーンに塗り替えました。

もう1枚。ブーゲンビリアです。
ブーゲンビリアはものすごい生命力ですね。
自力でどんどん天を目指して伸びていくのです。
間もなく下から上まで一面に咲き誇ります。
下のアジサイは普通のものです。

次の写真は2階のベランダから写したのですが、
天に向かって伸びていく勢いがあります。
ブーゲンビリアの花言葉は「情熱」「あなたは魅力に満ちています」
なのだそうです。
あやかりたいものです。

■「知性誕生」

脳科学者の著書の紹介です。
あまり有益ではなかったのですが、最後に私の「理論」を
多少ご紹介しました。

http://uenorio.blogspot.com/2011/06/blog-post_20.html

このタイトルだと何を期待されますか。
イギリスの脳科学者であるジョン・ダンカン教授の書かれた
本です。
茂木健一郎氏が日経新聞で書評を書いておられたので、
読んでみました。

茂木氏の書評では、
「自分自身の能力開発に興味がある人はもちろん、

教育関係者、経営者など、多くの人がこの本を有益だと感じるだろう」と書かれているのです。

原題は、HOW INTELLIGENCE HAPPENSで、直訳すれば、知性はどのようにして起きるのか、です。ですが、期待外れです。専門家以外が読んで、感心することはあまりなさそうです。

1. この本の中で専門家以外が最も理解できるのは、著者ではなく20世紀初頭の心理学者スピアマンの発見した次のことです。

「学力あるいは感覚弁別だけでなく、いかなる心的能力あるいは心的成績（決定の速さや記憶する能力、技術的問題を解決する能力、音楽的あるいは芸術的能力）に対して2種類の寄与がある。

一つ目は、それぞれの人の性質の中の一般因子（general factor、これをgと呼ぶ。取り組むどんなことにでもその人が用いるもの）からの寄与。
（上野注：分かりやすく言えば、何かができる人は他のこともできる）

二つ目は、一つ以上の特殊因子（specific factor, s）からの寄与。
こちらは、個人の技能や才能、その他の因子であり、記憶や芸術のような、測定される特定の能力に特有のもので他の活動にほとんど、あるいはまったく影響しない。
（上野注：いわゆる特殊才能です）

スピアマンはこのことを観察と実験から立証したのですが、その後以下のような反論をされて、必ずしもこの理論が認められてきたのではないのだそうです。

- ・ 人の能力が1回の知能テストの点数で決まるわけがない。知能にはいろいろな種類があるのに。
（实际的知能、社会的知能、感情的知能）
- ・ gによって、人の運命が決まってしまうのは認めがたい。
- ・ 社会的差別の一因になる。
（人種によってIQ（知能指数）の分布が異なる）

ジョン・ダンカン氏の貢献は、このgが脳のどこから由来するかを突き止めたことです。その苦労話が語られていて、茂木氏は感激されたようです。

分かりやすく言えば、人の能力には、一般的能力と特殊才能がある、この二つは別物である、優れた芸術家やプロ運動選手は特殊才能を持っている、と言うことで、これは今や常識になっています。このことの科学的な解明をしたということです。

2. 他にも理解しやすい理論が紹介されています。これも著者本人ではなく、1960年代に心理学者のレイモンド・キャッテル氏が提唱した理論のようです。

- ・知能には、流動性知能と結晶性知能がある。
- ・流動性知能は、新規の問題を解く現在の能力に関係する。
- ・結晶性知能は、習得された知識に基づく能力に関係する。
(上野注：難しい言葉を使っていますが、判断力と記憶力のことです)

これも脳の損傷を受けた人のテストからこの存在が実証されているようです。

3. 能動的行動と受動的行動という考え方も紹介されています。

行動は脳内の二つの並列経路で処理されている。
一つの経路は、靴の紐を結ぶことや文章を大声で読み上げること、職場まで行くことなどの馴染みの、熟練した日課や習慣に利用される。この経路は努力が要らないという感覚を伴う。つまり、課題がひとりでに進んでいるかのように思えるのだ。

二つ目の経路は、課題が不慣れであったり、難しかったり危険である時に働く。この経路は前頭葉を含んでいる。この経路は、能動的制御の感覚、つまり個人の注意と意志の感覚を伴う。

このことも、検証されたようです。

残念ながらすべてを通じて、日常生活に役立つ新しい知見は得られませんでした。

もう一つ気に入らなかったことがあります。この本は、本文316ページなのですが、以下の章構成となっていますが、章の下の節、項とかの区分がなく、ただだらだらと記述が続くのです。

第1章	「知」は力なり	24ページ
第2章	能力差はどこで生じる？	40ページ
第3章	モジュール性の脳と心	24ページ
第4章	知識と行動を結ぶもの	58ページ
第5章	人工知能から「思考」を探る	50ページ
第6章	前頭葉で起きていること 一サルの食事から戦闘指揮まで	42ページ
第7章	「理性」は何でも合理化する	34ページ
第8章	「知」の生物学的限界	26ページ

ビジネスのレポートだったら、一喝して突き返されます。こんな原稿をそのまま出版するセンスが分かりません。学者はそれを解説するとすれば、やはり学者さんは「偉い」ですね。

ここで私が約20年前に作った脳の働きのモデル（仮説）をご紹介します。これの方がよほどシンプルで分かりやすいモデルなのではないでしょうか。

この図は約20年前に作ったものですから、

作成技術は稚拙です。ご勘弁ください。

このモデルで見ますと、「知性誕生」で取り上げているのは、「判断力・記憶力特性」と「性能特性」だけです。

あらためて別の機会に、このモデルについて開陳したいと思います。

脳科学者の貢献は、これらの思考特性は、脳のどの部分でその働きを実現しているかを実証することなのです。それを証明するのは非常にたいへんなことなのです。

私は、ライフワークとして、A B O式血液型による脳の働きの差を科学的に検証したいと思っています。

この検証活動を始めていますが、なかなか大変です。共同研究者を探しています。ぜひどなたか一緒に研究しませんか。

■菅総理の引き際

あきれ果てた行動の菅総理の終りの予測です。

http://uenorio.blogspot.com/2011/06/blog-post_27.html

菅総理については、当の民主党幹部を含めほぼ国民全員があきれ果てています。

菅総理のいい加減さについてなぜこのブログで触れないのかというご意見をいただきましたので、1コマ設けさせていただきます。

ご承知のように、6月2日の衆議院本会議で内閣不信任案が通りそうな状況になりました。そうしたら、直前の民主党代議士会で「震災対応に一定のめどがついたら若い人たちに頑張ってもらおう」と発言しました。

これを代議士会では辞任の意思表示だとして、不信任案は否決となりました。

しかし、菅総理は辞任という言葉は使っていませんし、前提条件も留保しています。策士の面目躍如です。

その後、すっかり開き直って次から次と前提条件を付加し、復興作業、原発事故処理に加えて、再生エネルギー特別措置法案の成立を持ちだしました。

この状況をどう判断するか、です。二つの考え方があると思います。

一つめは、前向きに捉えるところになります。辞任時期が明確になると、その人の発言は全く重みが無くなります。極端に言えば「死に体」で誰も言うことを聞きません。

それを避けるために、
「辞任時期は先であるように周りに思わせる」という
作戦である、ということです。
この場合は、一般の予想よりも早く突然引退を表明し
周りを驚かせ、周りを「喜ばせる」ことになります。

二つめは、一般に思われているように、
とにかく権力の座に執着があり、
恋恋としている、というものです。
もしこれなら、後世に最も恥さらしの宰相として
名を残すことになるでしょう。

私は、ひょっとして一つ目のことがないのかな、
と期待しています。甘いでしょうか。

■花の話題つづき

「ちょっと休憩」していたら、
またまたびっくりしたことがありましたので
そのご紹介です。

http://uenorio.blogspot.com/2011/06/blog-post_4114.html

先日「ちょっと休憩」で、
今咲いてきた桜（普賢象）のことをご紹介しました。
そうしましたら、その直後19日に
なんと、
同じ樹にまた新しい花びらがあるではありませんか！

しかも先日のよりも元気で2か所に2輪ずつあるのです。
毎年、この樹をウォッチしてきましたが、
この季節に新しく花が咲いたのは初めてで、
しかもそれが次から次ですからビックリです。

こんなことはあるのでしょうか？
どなたか花の生態に詳しい方がおられましたら
教えてください。

私とその花を見上げていると、
通行人（たいがいは犬の散歩をしているオバサマです）に
「花が咲いているのですよ」と教えてあげます。
そうすると、皆さんびっくりです。

それがこの花です。

写真は未掲載ですが、28日にまた1組（2輪）が咲きました。

この花を、
今回の震災で被害に遭った地域・企業の
復興のシンボルにしてあやかるとよいと思います。

当社復興のシンボルとしても期待します。

■これからの日本をどうする？全体解説

震災後の新聞記事・報道をテーマ別に整理したものです。
上野の意見も登場します。
以下はそのシリーズです。

http://uenorio.blogspot.com/2011/06/blog-post_28.html

大震災後1カ月目くらいから、これからの日本をどうすればよいかという特集記事が組まれるようになりました。学者や著名人が意見を述べています。その意見を集約してみました。

以下、新聞等からの引用を「 」で示し、その後ろに（ ）で日付とその発言者を示しました。

日付はすべて日経新聞に掲載された日付です。発言者は著名な方は氏名のみで表示で、必要な場合に肩書も示しています。

以下の構成となっています。内容は一応独立していますので、単独でお読みいただいても結構です。

ですが、できれば以下の順序で読んでいただければ、論点のつながりをご理解いただきやすいと思います。

思考法の転換 「もっと自分で考えなさい！」
情報開示に対する意識変化 「早め早めに情報開示」
安全対策に対する意識変革 「事故が起きた時の対策重視」
「公共の利益重視」の見直し 「公共の利益優先せよ」
現場主義、現場力の強化 「それが日本の得意技」
現場主義による分権化 「それが日本の強み発揮」
有事対応力の強化 「起きた時の対応訓練をせよ」
外交の戦略 「どこと組む？」
官民連携の強化 「日本の強みを捨てるな」
国家財政の破たん救済 「まずは産業の強化」
ビジネスにおける意識変革 「いろいろ」
ビジネスの方向性 「自分で考えなさい」
学問のあり方・大学のあり方 「いいですね」

■思考法の転換 「もっと自分で考えなさい！」

「 」の中がその結論です。以下同様です。

http://uenorio.blogspot.com/2011/06/blog-post_1801.html

この項は「これからの日本どうする？」シリーズの一部です。このシリーズの全体は、「これからの日本をどうする？全体解説」をご覧ください。

まず基本になる思考法を変える必要がある、という意見があります。

「国民は科学者の説明を吟味し納得した上で信頼するのではなく、科学者が安全と言っているから安全だろうと考えがちだった。いわば上滑りの信頼を寄せていた。これからは、国民の側には、より正確な科学的事実を求める態度が強まるだろう」
(5/9 池内了教授)。

このことについて、以下の意見もありました。
「国民に科学を正しく理解してもらうため、サイエンスライターのような「通訳者」も増やすべきだろう。新聞は科学のページをもっと強化すべきだ」
(5/23 坂村健教授)

私に言わせれば、伝統的日本人の思考法は「人頼み・お上頼み」思考の延長です。ここからの脱却が必要です。

「日本には社会全体として傍観者的に発言することが知的である、

という風潮がある。しかしこれほど「反知的」であることはない」
(4/20野中郁次郎氏)

無責任の裏返しです。これもお上頼みの延長です。もっと自分で行動なさい！

思考法の転換では、私たちが提唱している
「価値目標思考」も有効です。

何かをするときには、
「何のためにそれをするのか」をとことん考えなさい、
というものです。
日本人はその思考が苦手です。

上野則男の著書「価値目標思考のすすめ」
(境屋太一氏推薦)をご参照ください。

■情報開示に対する意識変化 「早め早めに情報開示」
http://uenorio.blogspot.com/2011/06/blog-post_1648.html

この項は「これからの日本をどうする？」シリーズの一部です。
このシリーズの全体は、
「これからの日本をどうする？全体解説」をご覧ください。

「原発事故で日本ブランドは地に落ちてしまった。問題の根っこにあるのは
原子力をめぐる閉鎖的な体質だ。政府や東京電力など情報を持つ組織が内向きで、
外に向けた情報発信が十分にできていない」
(4/20野中郁次郎教授)

「被爆国として原発アレルギーが強い日本では専門家が積極的に情報公開して
こなかった。原発の安全な運営について専門家と国民がもっと考えるべきだ」
(5/27稲盛和夫氏)

放射性物質の広がり方を予測する「緊急時迅速放射能影響予測システム
(SPEED1)」があること及びその分析結果を政府が公表したのは
震災発生から12日後です。

これを使えば、原発からの距離が5キロ、20キロ、30キロなどという
機械的な線引きではない区域指定ができたはずです。

現在もこの機械的線引きが問題視されていて、区域外の若干高濃度の地域を
「ホットスポット」と称してマスコミは手柄顔に問題視しています。

トヨタ社の米国リコール問題、今回のソニーの情報漏洩問題でも情報開示の遅れが
糾弾されています。

日本社会では、具合の悪いデータ・自信のないデータを隠そうとします。
その原因は上野の分析ではこうなります。

まずは責任意識の強さです。「何とかしなくては」と自分で抱えてしまってことを
大きくします。その影響を自ら判断してから出そうとするのです。
問題発生は自分の非力を暴露することになるので、対応策を考えてから情報を
開示しようとするのでしょう。組織の責任と自分の責任を混同しているとも言えます。
過去の「切腹」の文化です。

次いで、逆説的ですが、日本社会は個人の責任追及が厳しくないことがあります。
個人の責任を追及しないであいまいに穏便に済ませる風潮です。追究が厳しければ、
いずれ分かってしまうことを隠そうとしません。開示して責任を転化した方が有利です。

それと個別の事情を見ると、状況判断力の弱さがあります。
危機管理対応力が弱いとも言えます。

これからは、なるべく早く情報公開した方が得だ、
という意識に変わるでしょう。

■安全対策に対する意識変革 「事故が起きた時の対策重視」
http://uenorio.blogspot.com/2011/06/blog-post_2886.html

この項は「これからの日本どうする？」シリーズの一部です。
このシリーズの全体は、
「これからの日本どうする？全体解説」をご覧ください。

「最悪の事態を想定せず、ことが起きてから考えるから時間がかかり失敗もする。
最悪の事態を想定することが背徳的とみなされる。

仏原子力庁とアレバ社は全仏各地の原発について炉心溶融やテロ攻撃・
核攻撃放射性物質の大量放出など考えられる限りの最悪の事態を想定している」
(5/9編集委員太田泰彦)

フランスは歴史的に周辺国との攻防が常にありました。
危機管理意識は国民性として身につけているでしょう。

日本はその真反対です。危機意識は明治維新の開国の時と敗戦の時以外は
なかったのです。特に戦後60年以上は全く危機意識がない国民に
なっています(上野)。

起きないようにするに重点を置き、起きたらどうするに弱い、
「起きるなんてとんでもない」という考えです。

そうではなく、「津波は防波堤があるから来ない」と考えるのではなく、
「来たときどうする」という考え方を併用する、そのバランスをとる、
という考え方にしなければなりません。

福島原発は「問題が起きないようにしている」の一点張りで、
「問題が起きたときどうする」の考え方が0に近かったようです。

参考「今回の原発は事後対応も悪いが、『起きないようにする』
もいい加減であった。

東電は07年の中越沖地震で柏崎刈羽原発が被害を受けた。
危ないと思った炉や相反は大丈夫だったが、重要と考えなかったクレーンや
消火用配管などが壊れ、発電所自体が機能不全に陥った。
そう指摘すると東電は施設を見直し強化したが、警告は福島第1原発まで届かなかった」
(5/16畑村洋太郎氏)

残念なことでしたね(上野)。

個人情報保護でも同じです。
100%起きないようにすることは無理です。コストがかかり過ぎます。
起きたことを素早くキャッチする、そうして対応策をすぐに打つ、方が現実的です。

日本の民意(マスコミ)はコトが起きると大騒ぎします。
したがって、起きないようにする方に力点を置き過ぎることになります。
「これは想定範囲外のことだったので」という方針をいち早くアナウンスして
早急に対応策をとる方が評価されるのに、後手を踏むから叩かれるのです(上野)。

「岩手県釜石市で避難訓練を続けてきた小中学校は生徒全員が無事だった。先生の指示を待たずにとにかく高台に逃げろを徹底していたという。一方運動場で点呼を受けているうちに津波が近づき多くの児童が犠牲になった小学校もあった。マニュアルに従うこれまでの訓練は自分で危険を考えない」
(5/16 畑村洋太郎氏)

そうとも言えますが、先生か校長のとっさの状況判断の甘さが原因でもあります。責任はその人たちにあります。
「起きた時にどうする」の危機管理対応力の弱さです (上野)。

■「公共の利益重視」の見直し 「公共の利益優先せよ」
http://uenorio.blogspot.com/2011/06/blog-post_6468.html

この項は「これからの日本どうする？」シリーズの一部です。
このシリーズの全体は、
「これからの日本どうする？全体解説」をご覧ください。

津波被災地を高台に移す計画や漁港の統合問題は、
個人の私権との戦いとなっています。

「米国では竜巻などが襲う可能性がある沿岸部の自治体は
条例で居住を禁止できるようになっている。

日本でも1993年の北海道南西沖地震で津波に襲われた奥尻等では
高台移転を実現した。日本は個人に配慮し過ぎ。防災や安全を優先する思想が
あっていい (流通経済大学原田英生教授)」。
(5/8 特集「新しい日本へ」)

「日本は私権制限の議論をはばかってきたために、インフラ整備が進まず、
望ましい改革も遅れ、得るべき利益を失った (復興会議委員河野龍太郎氏)」
(5/8 特集「新しい日本へ」)

そのとおりです (以下上野意見)。日本では、公共の利益と個人の権利の
バランスは後者重視に傾き過ぎです。

その理由は、私権の導入がフランス革命等のように自分たちの血と汗で
得られたものではなく、観念として外国から導入したものであるため、
と考えられます。魂が入っていないのです。

そのバランスが悪いためにどれだけの税金の無駄遣いとなっているか、
私の住居周辺の道路拡幅・新設工事の遅れを見ていてつくづく思います。

たった1件の家が立ち退かないために道路の供用開始が何年も遅れるのです。
最後の最後しか強制立ち退きを実行しません。

お役所の事なかれ主義による問題先送りもあります。
この点については、もう少し行政の怠慢を見張ることも必要なようです。

このことに関連して東北の農林業・漁業の復活問題があります。
当事者の利害がからむのどうかつに発言できないのでしょうか。
明確な提言は見当たりません。現に宮城県が、
私も正論と思う漁港の集約方向を打ち出したら猛反対に遭っています。
ですが理が通るなら、強権発動してやったらよいと思います。
そうしないと、また何年後かに悔やまれることが起きますよ！ (上野)

■現場主義、現場力の強化 「それが日本の得意技」
http://uenorio.blogspot.com/2011/06/blog-post_7342.html

この項は「これからの日本どうする？」シリーズの一部です。
このシリーズの全体は、
「これからの日本どうする？全体解説」をご覧ください。

日本の強みの一つは現場力です。現場主導での復旧活動の強さは、
十分世界にも認めてもらえました。現場主義は健在です。

「日本の高度成長を支えたのは大学卒のエリート技術者ではなかった。

工業専門学校などを出て
現場の血と汗と涙を知る人たちだ。頭でっかちで挫折の経験のない大卒の
技術者が増えて日本の技術力はじわじわ弱まっていたのだが、
成長がそれを覆い隠してきた。

現場には力があるが、組織の中堅以上のマネジメント能力が欠けている。

相も変わらず、年功序列で単線のキャリアコースの中で危機に対処できる人材が
育っていない。実力のある人間が出世せず、リスクを取らない人間が偉くなる。

20年以上前から指摘されていたことだが、何も変わっていないことが改めて分かった」
(5/9 黒川清教授)

まったくそのとおりです。特に後段のご意見は同感です。大企業ではここからの脱却は
難しいのでしょうか(上野)。

「現場よりも分析を重んじる米国型の経営が勢いづく中で、現実を知り抜いた人が
日本企業の組織の中心に少なくなっていた。これからの企業には単なる現場主義にとどまら
ず、
大局的な視野をいかに取り入れていくかが重要になる」
(4/20 野中郁次郎教授)

そのとおりです。当社もそのための研修を実施しています(上野)。

■現場主義による分権化 「それが日本の強み発揮」
http://uenorio.blogspot.com/2011/06/blog-post_2048.html

この項は「これからの日本どうする？」シリーズの一部です。
このシリーズの全体は、
「これからの日本どうする？全体解説」をご覧ください。

今回の大震災でも、小売業のイオンは現場の判断で、
商品を無料で被災者に提供したり、POSが動かない中で一律100円での
商品提供をしたり、などを実施しました。

「ローソンは、仮設プレハブ店舗や移動式店舗などで営業を実施、
本社からのコメが届かないので現場調達でおにぎりを提供した。
全国7支社に商品開発や店舗開発の権限を与えている」
(5/20 「新しい日本へ」)

日本は国民1人1人の民意・能力が高いことが現場主義の背景です。

これは他国に対する優位性ですから、是非それを活かした経営スタイルを強化して画一的・集権的な米国モデルに対抗していただきたいものです（上野）。

■有事対応力の強化 「起きた時の対応訓練をせよ」

http://uenorio.blogspot.com/2011/06/blog-post_7934.html

この項は「これからの日本どうする？」シリーズの一部です。
このシリーズの全体は、
「これからの日本どうする？全体解説」をご覧ください。

現在、多くの企業で、BCP（事業継続計画）の見直しが行われています。
日本のBCPは、多くの場合、通り一遍、安全ボケの延長です。

徹底的なリスク対応概念が弱い、リスク対応のバランスが悪い
（起きないようにするに重点を置き、起きたらどうするに弱い）、
「起きるなんてとんでもない」という考えです。

今後のBCPの対策は、事故が起きないことを対策の中心で検討するのではなく、
「起きた時どうする」をもっと強化する方向にしていきたいものです。

日本IBM社では震災発生後の4分後に危機管理マニュアルに基づく
対策が動き出しています。

■外交の戦略 「どこと組む？」

http://uenorio.blogspot.com/2011/06/blog-post_5494.html

この項は「これからの日本どうする？」シリーズの一部です。
このシリーズの全体は、
「これからの日本どうする？全体解説」をご覧ください。

「米国は、今回の震災で日本の国力が落ちることを心配しています。
そうすると、東アジアにおけるパワーバランスが崩れるからです。

皮肉なことに今回の震災で、日本との同盟強化の必要性が再認識されたようです。

中国は相変わらず日米関係が強化されることをけん制しています。

日本としては、どちらとの友好関係をより重視するのかを求められています」
（6/1「新しい日本へ」若干編集）

私は、領土を拡張しようという気のない国と関係強化するのが
国益にかなっていると思います（上野）。

■官民連携の強化 「日本の強みを捨てるな」

http://uenorio.blogspot.com/2011/06/blog-post_5881.html

この項は「これからの日本どうする？」シリーズの一部です。
このシリーズの全体は、
「これからの日本どうする？全体解説」をご覧ください。

「（この15年間に亘る日本の停滞の原因の一つは）
日本株式会社の極端な破滅だ。

官民連携が日本経済の強さの源泉だったはずだ。

それを米欧の批判をまともに受け入れ、連携を遮断した。

本来、官民の究極の目標は国力を高めるということで共通だ。

官僚は糾弾されて委縮し、企業は行き過ぎた市場原理主義に
適応できずに戸惑っているのが現状だ」
（4/18 マハティール元マレーシア首相）

外国からの貴重なご意見です。賛成です（上野）。

■国家財政の破たん救済 「まずは産業の強化」
http://uenorio.blogspot.com/2011/06/blog-post_1850.html

この項は「これからの日本をどうする？」シリーズの一部です。
このシリーズの全体は、
「これからの日本をどうする？全体解説」をご覧ください。

「日本は世界で最も高い災害のリスクを抱え（今後30年以内に70%の
確率で起きると想定されている首都直下型地震の被害想定はなんと112兆円）、

世界最悪の財政状態にあり（869兆円の国と地方の借金はGDPの1.8倍）、

世界最速で少子と高齢化が進む。
これ以上の問題先送りはできない」（6/16 「新しい日本へ」）

なんといっても産業の競争力強化が先決ですね（上野）。

■ビジネスにおける意識変革 「いろいろ」
http://uenorio.blogspot.com/2011/06/blog-post_3324.html

この項は「これからの日本をどうする？」シリーズの一部です。
このシリーズの全体は、
「これからの日本をどうする？全体解説」をご覧ください。

「グローバル競争の激化で、
日本の製造業は当座の急ではない大事故等に対する設備保安などに目を
向けない傾向が出ている。

震災による部材・原料の調達難に対しては、納入企業の復旧支援、
代替調達源の確保など組織の瞬発力、対応力こそ問われる」
（3/21 編集委員五島康浩）

その後の状況をみると、後者はかなり実現できているようです。
今後は、「大事故等でも問題が起きないようにする」ことに対する
経営者の価値観が変わることが期待されます（上野）。

「今回の震災や原発事故で、安全追究意識や省エネ意識が格段に強まっているので、
それに対応するビジネスを考えることも有意義である。

帝人の大八木社長は、3月11日地震発生時に肺疾患で呼吸不全に悩んでいる

患者のことを真っ先に考えた。

その人たちに酸素濃縮装置を提供しているのだ。東北には5千人いる。関係者を総動員してその人たちを探してサービスの提供を点検・補強した。

その経験から、そのような装置を備えるケアハウスを全国に展開する事業を思い立ったという。

『あくまで、安全・安心を、広い意味での社会貢献として確立しなければ、企業はもはや生きていけない』（大八木社長）
（5/2特別編集委員森一夫氏）

事例として参考になる情報です。因みに、帝人は私の「母校」です（上野）。

■ビジネスの方向性 「自分で考えなさい」

http://uenorio.blogspot.com/2011/06/blog-post_8809.html

この項は「これからの日本をどうする？」シリーズの一部です。
このシリーズの全体は、
「これからの日本をどうする？全体解説」をご覧ください。

ビジネスの方向性についての具体的な提言は残念ながらありません。

「戦後産業史はこの大震災で不連続になり、「震後」産業史が始まる。変化の中にチャンスがあり、逆風である風もある。

マクロの成長が減衰しても新しい工夫と需要創造で個別企業の成長は可能だ。

それには震災拠点の復旧・復興とリスク回避のための国内再配置やグローバル展開という二兎も三兎も負わなければならない。

技術、人材、事業の培養という
長期的な視点に立った経営から、どんな省エネ製品などを送り出すか
世界は注目している」（4/25日経新聞客員コラムニスト西岡幸一）

竜頭蛇尾的ですね（上野）。

「大震災と原発事故で多くの中小・零細企業が被害を受けた。
被災した中小企業の経営者には『なにくそ』という気持ちで立ち向かってほしい。

強い意志を持った経営者を支援するため、政府や自治体、金融機関は無利子・無担保で長期融資できる特例を作るべきだ。経済界も資金を拠出して欲しい。

原発の安全な運営について専門家と国民が
もっと考えるべきだ。自然エネルギーの導入が最も進んだ先進国を目指すべきだ。
競争のないところに進歩はない。産学官で議論していくべきだ」
（5/27稲盛和夫氏）

稲盛さんらしい意見と中小企業へのエールです。
賛成です（上野）。

「予想されない経済変動は
これまで以上の頻度で起きるだろう。内需は伸びず、リスクの高い海外に乗り出す必要もある。
企業はある程度大きいことが国際競争を勝ち抜く大きな要因になる。

日本企業の統合再編はさらに進むし、
進んでほしいと思う」（4/21 三村明夫新日鉄会長）

ご自分のビジネスの立場からの発言です（上野）。

「（一般に行われているリスク対策としての）調達分散はコストがかかる。
それよりメーカーの枠を超えて業界標準を作り調達を合理化の方がよい。
（5/28 キリンHD三宅占二社長）

狭い範囲のことですが、具体的な対策です（上野）。

一般解はないようです。やはり、自分のビジネスを分析して、
これからの環境で強みを生かせる方向を考えるしかないですね。

■学問のあり方・大学のあり方 「いいですね」

http://uenorio.blogspot.com/2011/06/blog-post_2075.html

（注）この項は「これからの日本をどうする？」シリーズ
の最後です。
ブログの仕組み上、
初めの原稿が一番下になってしまいます。

内容は一応独立に作成していますが、
いくつかを読んでいただける方は、
できれば下からの順序で読んでいただいた方が
つながりを理解していただけたと思います。

これについては、建設的で具体的な提言が多数出ています。
大学の先生やそのOBはさすがに自分たちのことはよく分かりますね。

「日本の科学者は自分の研究分野では優れている人も多いが、
そこしかわからないという狭い視野しか持ってこなかった。
社会と積極的にかかわろうとしない。知的なレベルが高い人ほど頭の中は「鎖国状態」だ。

若い人が目上の人たちを追い出すしかない。（たとえば）
ネットを使って自分たちがどう社会を変えられるか真剣に
考えるべき時だ」（5/9 黒川清教授）

（ここから4/17 野依良治氏）「日本の力は科学技術にある。
科学技術の底力を培わなくては、復興も成長も中長期的にみておぼつかない。
東北の復興の要に、世界からトップクラスの科学者が集まる研究所をつくることを提案したい。

そこで取り組むのは人類生存のための研究だ。エネルギーや食料、
環境など人類共通の課題に世界の先頭に立って挑む明確なメッセージを打ち出せば、
世界から共感を持って迎えられ人材が集まる」

（東北6県で東北州を作る前提で）東北大学を州立大学にし、
そこを突破口にして旧態依然の国立大学の再編を促したい。
東北大学を、東大を超える学術研究と地域再生の拠点として育てることを
政治が強いリーダーシップをもって進めてもらいたい。

生命の進化を振り返ると、極限的な事象で環境が大きく変わったときに
新しいものが生まれる。

震災は新生への契機となる。新しい組織では若い人をリーダーにして
思い切って力を振るえるようにすべきだ。

問題解決型の科学が要る。

物理学者だけでエネルギー問題は解決できない。社会が抱える課題の解決には個々の専門分野だけではだめだ。さまざまな知識や技術を組み合わせ、まとめることで可能となる」(4/17野依良治氏)

「東北大学は歴史的・世界的な大災害を経験した総合大学になった。この経験を人類社会の発展に役立てたい。

大学内に防災科学について総合的に研究する災害復興新生研究機構(仮称)を設けて、地域との密接な連携の下に被災地の復興と大学の新生に取り組んでいきたい。

震災後の対応などで強いリーダーシップを振るい危機の状況について国民に説明のできる人材がたくさんいたらと思う」(5/30井上明久東北大学総長)

■ゴールドラット博士の死を悼む

http://uenorio.blogspot.com/2011/06/blog-post_29.html

「ザ・ゴール」で一躍日本のビジネス従事者の脚光を集めたゴールドラット博士が6月12日に急逝されました。

私は博士の書かれた著書を何冊も読ませていただいて、博士はすごい方だ、天才だ、と敬服しておりました。

方法論屋の端くれとしての私から見て、博士が提唱されたTOCのコンセプトがたいへん素晴らしいのですが、その方が小説も書け、もともとは物理学者でコンサルタントとしても有能で、と驚嘆に値する方でした。

私自身は一度お会いして片言で少しお話をさせていただいたのですが、博士が自分の後継者だと言われる岸良祐司さん(日本TOC推進協議会理事)からのメールを少し長いのですが、そのまま以下にご紹介させていただいて博士への追悼とさせていただきます。

悲しいお知らせがあります。

数時間前、ゴールドラット博士が亡くなりました。家族全員に看取られての穏やかな最後だったそうです。

もともと、博士はデフォルトで、生まれて以来、血液の病気の問題を抱えていて、血液の赤血球が通常の人よりもはるかに多い(血の気が多い?)という病気を持っていました。

通常は血栓ができやすく、生きているのが不思議だと言われてるほどなのですが、一方で、血液の凝固がされにくいという病気をもっており、このバランスが絶妙で生きていたんです。

これは今に始まったことではなく、いわゆる持病なのですが、定期検査で4月に医者に行った時に、

偶然、肺がんが見つかり、治療中でした。

ただ、血液の問題があり、放射線治療を普通のよりも難しく、治療は困難を極めていました。
本人は、放射線治療の影響で今、ハゲてしまっても「ハゲの友達がもう一人増えたな！」
(南米担当の側近JのJavierががハゲてるんです)。

ガンにかかっても、博士は、博士。
博士は、自らの体の変調を、Cause&Effectで分析していて、血液の病気と組織の病気についてのメカニズムとか、医療システムの問題とか、相変わらず子供のようにイキイキと分析していたのは、ほんの1週間前のことです。

実は、博士は、60才を迎え、健康だったときにも、死を意識して、“I hear clock”と言って、100-200年後に、他の人ができないことだけすると、自らの生き方を決めてきました。

「60才から、自分の寿命を意識して、毎日を暮らしていたのは知っての通り。
肺がんにかかって、自らの生き方を再度じっくりと考えたが、驚いた。

もしも限られた時間しかなくても、自分の毎日の暮らしを変える必要がないことに気がついた。それほど充実し、意義のある暮らしを毎日していることに、改めて気がつかされた。

たとえ、今、私がいなくなるとしても心配することはない。TOCを通じてすばらしい家族がてきたこと。そして、私の肩の上に立って、進んでいくことを確信している。心配なのはわかっているし、とてもうれしい。

でも、みんなもわかっているように死ぬつもりはまったくくない。これからも、みんなのジャマをするので、そっちを心配したほうがよいぞ！」

実は、先週もずっと博士と一緒にでした。
今週末から始まるTOC国際大会に博士が出られないので、世界中の側近が集まって、博士の代わりにセミナーをすることになり、博士の指導を受けてました。

博士は、朝から晩まで、本当に精力的。
実際朝10時から一夜9時まで議論したあと、夕食たべてから、また10時から議論したいと言われてたりして・・・

博士と話すと、脳みそをものすごく使うんで、みんな本当にヘトヘト・・・

エリの体調のこともあるけど、我々の体力（脳力）がついていかず、翌日に持ち越すのを許してもらったほどでした。

その内容は、「いかに偉大な人物の偉業から学ぶか」ということでした。

「科学は、偉大な人物の偉業から学び、その「巨人の肩の上に立って」進化していく。

そのプロセスをつまびらかにしてい
我々が、知識を今後も発展させていくことを可能にする
ロジックを教えてくださいました。
それが彼の最後の遺言となったわけです。

それはシンプルに“Never say I know”です。
「人はもともと善良である」
「ものごとは、そもそもシンプルである」
「あらゆる対立・矛盾にも妥協ない解決策は存在する」

この3つを信念に、博士は今まで理論を築いてきました。

そして、もう一つ、Never say I know
「わかっているとは決して言わない」
という大切な信念を語ったのです。

この信念こそが、常に知識体系を進化させる
エンジンとなっていくというものでした。

この知識体系はかなり濃密なもので、
ロジックもクリアーに示されています。

来週、ニューヨークで開催されるTOC国際大会では2日間費やし、
世界中のトップエキスパートに共有されます。

実は、その内容のほとんどが、
私がここ数年やってきたことのロジックで構成されていて、
みんなの前であまりに、
YUJIという名前が出て、みんなの前で褒められてしまい、
ちょっと当惑してしまいました・・・

You make my life meaningful.
おまえが私の人生を意義のあるものにしてくれた。

彼はやさしい目で私に語りかけてくれました。
本当に光栄なことです。

博士は厳しい師匠でもありました。
いつも「私を超えなさい」と途方もない要求をしてくれます。

博士に「いつか博士を超えることができるのだろうか？」
と質問しました。
博士は、次のように話をしてくれました。

「おまえならできる。
日本という国を真剣によくしようと動いている。
一市民なのに、
国の政策を変えるようなことをできる人間は世界中にそうはいない。
(国土交通省で私が実践している
「三方良しの公共事業改革」のことです)

初めて会ったときに、おまえなら世界を変えられると言って、
誘ったのは覚えているだろう。
世界中の多くの人間が
おまえと同じようなことをしようと活動をしている。

今日だって、私が話したロジックのほとんどは
おまえがつくったものなのは、誰もがわかっていることだ。
私の見込みは間違っていなかった。

確かにおまえは世界を変え始めているのだ。

でも、それが、私を超えられる理由ではない。Yuji、おまえは、私よりも、いい先生をもっているだろう！」

どこまでもチャーミングな人でした。
死を意識したときに、自分の生活をまったく変える必要がない。
それほどまでに充実している自分の人生を実感し、
改めていかに自分が幸せかを感じる。

そんな人生を暮らす博士。
その偉大さに改めて感動しました。
すごい師匠をもって私は幸せものです。

博士はユダヤ人。
ユダヤ人の最大の恩返しは師匠を超えることなんだそうです。

私などには、もったいない偉大な師匠です。
まだまだ、遠く及ばないけれど、
ゴールドラット博士という「巨人の肩の上に立って」、
今後とも、“Never say I know”の信念をもって、
師匠を超えるために精進してまいりたいと思います。

今後とも、ご指導のほどよろしく申し上げます。

岸良

p. s. ゴールドラット博士の息子、
ラミ（博士に勝るとも劣らない天才でありながら
温かい思いやりをもった人。
生まれついてからTOCをやるとこんなに人格者になる
のかというほど傑出した人物です）が、
博士の死を知らせるメッセージの最後に次の言葉を添えています。

“Now this is not the end. It is not even the beginning of the end.
But it is, perhaps, the end of the beginning.” (Sir Winston Churchill)

物語は始まったばかり。これからなんだ・・・
心からそう思います。

【弊社からのお知らせ 目次および開催日程】
<http://www.newspt.co.jp/data/schedule.html>

- ▼ 2011年度SLCM研究会（システム・ライフサイクル・マネジメント研究会）
～ソフトウェア保守業務改革の実践～・・・会員募集中
- ▼ 保守業務改革プロフェッショナル（Sweeper）
養成講座・・・6/29開講
- ▼ 保守業務の革新研究トップセミナー
～保守業務のビジネス貢献拡大を目指して～・・・7/12

-
- ▼ 2011年度SLCM研究会（システム・ライフサイクル・マネジメント研究会）
 - ◆ソフトウェア保守業務改革の実践研究会（通称：保守研究会）
- 6月23日に事前検討会の位置付けでスタートいたしました。

本格的な研究会活動は9月15日からとなります。
現在、会員様を募集継続しております。
研究会内容の詳細は是非お問い合わせください。

今後の開催日程：2011年 9月15日、11月17日、2012年1月19日、3月15日
* 年間4回、いずれも木曜日の開催です。
各回とも13:30~18:30まで、その後情報交換会を実施します。

http://www.newspt.co.jp/data/slcm/hosyu_ken.html

対象者：ソフトウェア保守業務の改善・改革をミッションとしておられる方、
ご関心のある方など、是非ご参加ください。
これまでの研究会へのご参加は不問です。

参加費：お1人参加：189,000円
お2人参加：241,500円（いずれも税込）

▼ 保守業務改革プロフェッショナル（Sweeper）
養成講座・・・6/29開講しました

- ◆既の開講いたしました、第2單元からのご参加も可能です。
途中ご参加の場合はそれまでの講座について補講をさせていただきます。
原則隔週水曜日に9講座を実施し、その後3カ月あけて実践をしていただく
内容です。
是非、詳細についてご説明に伺いますのでお気軽にお問い合わせください。

▼ 保守業務の革新研究セミナー
～保守コストの半減を目指して～・・・7/12

◆7月12日（火）14:00~19:00

<http://www.newspt.co.jp/data/semina/tops.html>

対象者：情報システム・IT部門長殿、
およびそのご推薦の方で保守業務の改善にご関心のある方
参加費：無料

お申し込み・お問い合わせにつきましては本メールへの返信あるいは
弊社HPよりお願いいたします。



<http://www.newspt.co.jp/data/schedule.html>

☆☆アドレス変更・送信停止等は本メールへの返信にてお願いします☆☆

システム企画研修株式会社

Tel：03-5695-3130、Fax：03-5695-3131

〒103-0001 中央区日本橋小伝馬町16-2 東事協ビル2F

mind-pc@newspt.co.jp

<http://www.newspt.co.jp>
